

・チャプタ 3・

1984 (昭和59) 年度



両輪の時代

「共に作ろう伊予高を」と呼びかける1期生と、それに応える2期生とが左右の両輪のように協力し、励ましあい、伊予高の伝統づくりの大きな基礎を築いた。

伊予校史中唯一の、2個学年だけの時代である。

築

創の時代をうけて。築。私たちの心に新たな感動と自覚とまた愛校心が深まった。二期生とともに歩んだ伊予高第二のステップ。

沿革～昭和59年度（1984）～

月日	主な学校行事および部活動記録
4.9	第2回入学式・始業式 入学許可者453名
4.20	柔道・剣道・園芸部新設
5.8	生徒会役員立候補者立会演説会
5.22	開校記念行事 グループ結団式
6.2	県高校総合体育大会出場選手96名
6.10	県高校放送コンテスト 放送部入賞 ラジオ番組制作自由部門 最優秀 「あなたの代名詞は何ですか」 テレビ番組制作自由部門 優秀 「へんろ ～心のふれあい～」 テレビ番組制作課題部門 優良 「おはようでスタート」
7.6	第1回グループマッチ
7.16	高校野球大会県予選 本校 7-8 内子（全校応援）
7.20	伊予高校新聞 第1号発刊
7.21	保護者座談会 「伊予高教育を考える」
7.24	2年生修学旅行（～30日）東京・信州方面
8.5	NHK杯高校放送コンテスト全国大会 放送部入賞 テレビ番組制作自由部門 優秀賞
8.6	全日本吹奏楽コンクール県大会 A部門 金賞
8.23	全日本吹奏楽コンクール四国大会 金賞 (初の全国大会出場)

月日	主な学校行事および部活動記録
9.11	生徒会活動グループ名決定
9.22	第2回運動会 校旗贈呈（おおとり会）
10.19	PTA会報「いよ高」第1号発刊
10.26	秋季県展書道部4名入選
10.27	全日本吹奏楽コンクール全国大会 銅賞
11.3	軟式庭球部 新人戦中予大会 優勝
11.9	第2回文化週間（～15日）
11.12	県教育委員会学校訪問・研究指定校発表会
11.15	持久走週間（～22日）
11.18	愛媛高校芸術祭県連合音楽会 最優秀 ソフトボール部 新人戦 県大会3位
11.22	PTA研修（大洲高校・内子町町並み等視察）
11.26	県生徒理科研究作品審査で科学部が作品特別賞を受賞
2.3	愛媛県学生書道展 優秀学校賞
2.23	第8回愛媛・学校新聞コンクール 高校の部 佳作
3.28	第3期工事竣工（図書館・プール・クラブハウス）

2年目は、部活動の活躍が目立ちました〔放送部・吹奏楽部・書道部・軟式庭球部・科学部〕。それと同時に、学校のかたちが徐々に形成されていくのです。

・セクション 1・

第2回入学式

1984.4.9



二つの輪 [おおとり第2号より再録]

新入生代表宣誓

すっかり春めいた陽光のあふれる今日の佳き日に、私たち453名は、新入生として愛媛県立伊予高等学校に入学できることを光榮に思います。

自信に満ちた輝くまなざしで通学されている先輩方や、立派な校舎を見ながら、あこがれていた伊予高生になった喜びを、私たちは今、かみしめています。

私たちは、誇りある伊予高第二期生としての責任の重さを自覚し、けじめのある生活習慣を身につけ、思いやりのある若者になります。また学行に励み、自己の可能性を限りなく伸ばしより良い伝統と校風を自らの手で築く努力をします。

生徒代表歓迎の言葉

新入生の皆さん入学おめでとうございます。これから始まる高校三年間の生活は、自らの人生の基礎を固める大切な時期でもあります。「九層の台も累土より起こり、千里の行も足下より始まる」という格言こそ、まさに現在の伊予高校及び、私たちの立場をいい得ていると思います。つまり私たち一人一人が自分を高めながら歩いていき、この学校を愛する気持ちをもつことが今後長く存続する伝統を築いていくことになるのです。

新入生の皆さん、私たちとともに、手を携えながら、勢いのある若々しい伊予高校を創っていきましょう。



・ セクション 2 ・

県高校総合体育大会

1984.6.2



出場選手の総数96名。昨年より新しいもの・伊予高独自のものという目標を掲げ、応援合戦の
人文字もグレードアップし、「両輪の力」を出し切った！

人文字	拍子 (応援の要領)
伊予	リーダーの「オス」の合図と同時に出す。
	リーダーの「愛媛県立伊予高等学校の・・・ ・・・おおとり拍子」
いよ	「オーリャ」タンタンタン タンタンタン、 タンタンタン、タンタンタンに合わせて
いよ	2回目
いよ	3回目
	「伊予高拍手」 リーダー「オス」で
伊予	リーダー「オーリャ」のあと、 全員で「ヨー」の声
//	”
	”
	”

人文字	拍子 (応援の要領)
--	リーダーの「オーリャ」「オス」のあと 「オス」を全員で
	”
	5回目から手拍子を速く
	「オー」「ストップ」で『高』を出す
麗	団長「心麗しく」 全員「ココロウルワシク」
磨	団長「技磨け」 全員「ワザミガケ」
鍛	団長「体鍛え」 全員「カラダキタエ」
	三・三・七拍子「オス」で タンタンタン、タンタンタン、タンタンタンタンタンタン
	2回目
築	3回目
	「エール」で
	動作付きで「フレーフレー伊予高」「GO」「オス」

県高校総体 応援合戦



リーダーの「オス」の合図と同時に・・・

1/12

県高校総体 応援合戦



「オーリャ」タンタンタタン タンタンタタン、タンタンタタン、タンタンタタンに合わせて

2/12

県高校総体 応援合戦



3回目

3/12

県高校総体 応援合戦



リーダー「オーリャ」のあと、全員で「ヨー」の声

4/12

県高校総体 応援合戦



リーダー「オーリャ」のあと、全員で「ヨー」の声

5/12

県高校総体 応援合戦



リーダー「オーリヤ」のあと、全員で「ヨー」の声

6/12

県高校総体 応援合戦



リーダー「オーリャ」のあと、全員で「ヨー」の声

7/12

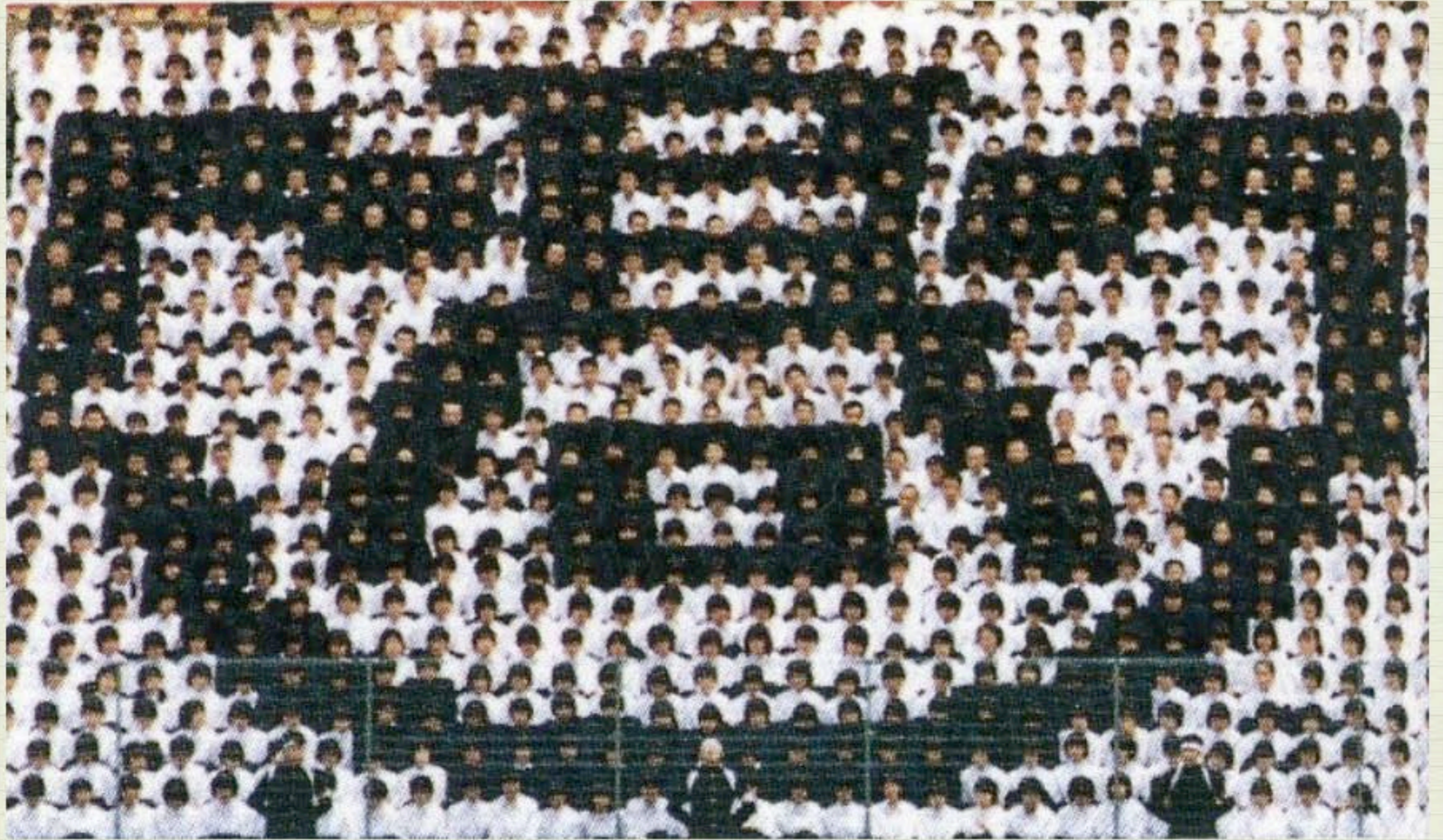
県高校総体 応援合戦



リーダーの「オーリャ」「オス」のあと「オス」を全員で

8/12

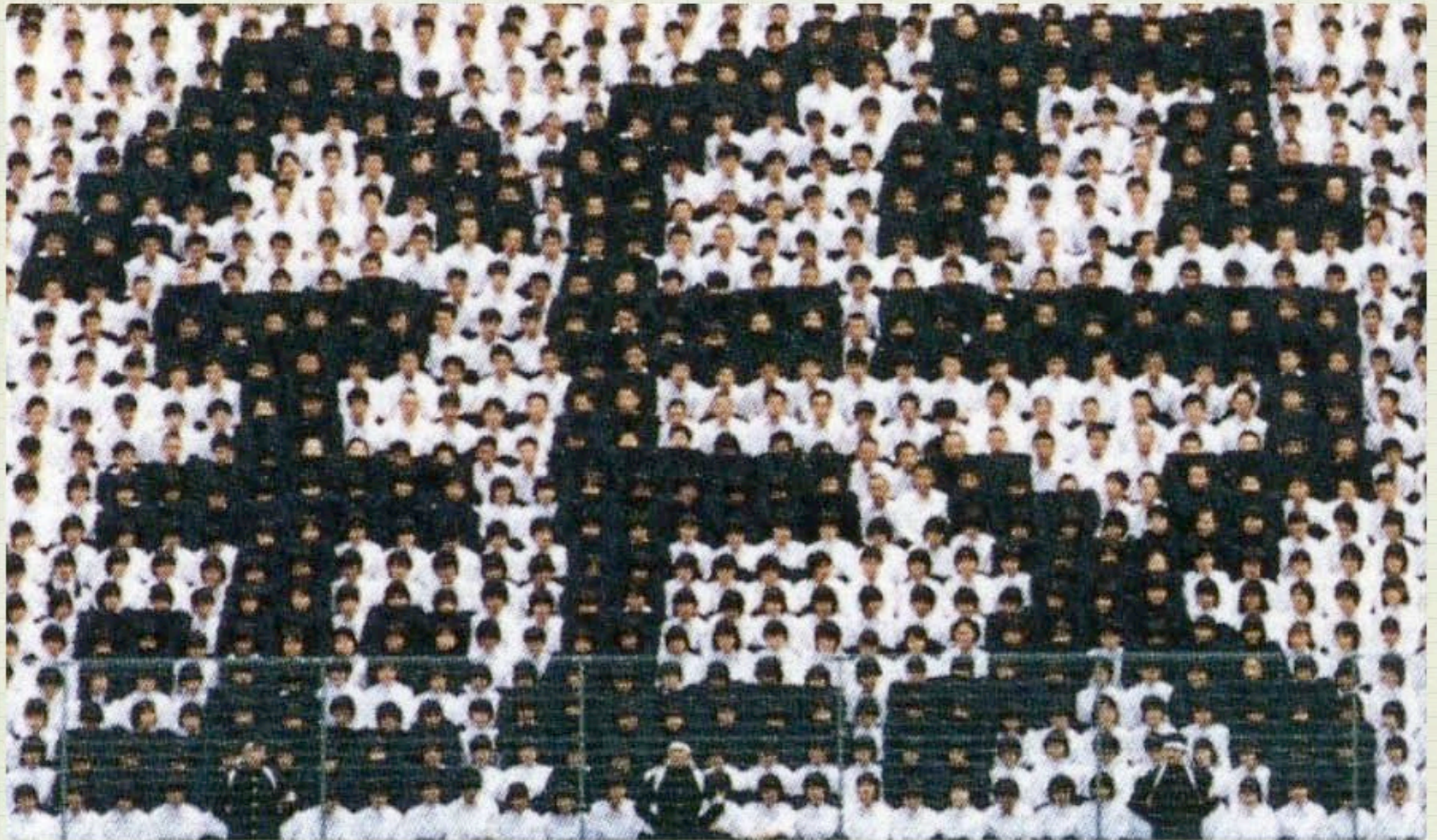
県高校総体 応援合戦



「オー」「ストップ」で「高」を出す

9/12

県高校総体 応援合戦



団長「体鍛え」

全員「カラダキタエ」

10/12

県高校総体 応援合戦



三・三・七拍子「オス」で タンタンタン、タンタンタン、タンタンタンタンタンタンタン

11/12

県高校総体 応援合戦



動作付きで「フレイフレイ伊予高」「GO」「オス」

12/12

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



地蔵町駅前。奥に「住田商店」の看板が見える〔現在も同地にある〕。

.....

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



地蔵町駅前②。2012年現在とは違い、木造建築である。

.....

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



松前駅構内。雑巾で窓ガラス等を丁寧に拭いていく。

.....

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



義農公園の清掃。奥に義農作兵衛の像が見える。

.....

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



同じく義農公園。熱心に清掃活動に取り組む。

.....

・セクション 3・

クリーン愛媛

1984.7.12

県民総参加の「クリーン愛媛運動」の一環として行う



松前町役場前の清掃活動の様子。これは旧庁舎である。

.....

伊予高新聞 第1号発刊

1984.7.20

第1号

伊 予 高 新 聞

昭和59年7月20日

両輪の時代を迎えて



アイレックスロードを歩く伊予高生

伊予高新聞

発行 立校
愛 種 伊 予 高 等 学 校
印 刷 瀬 戸 内 印 刷 株 式 会 社



両輪の轍わだちに刻むものはなに

校長 石丸 弘之

昨午の全高校の校歌を見
る機会があった。そのとき、
歌詞の中には「伝統」という
語が使われているのは十校
であるのを知った。そして、
その用法はいずれも、「伝
統として受け継いでいる○
○」とか、「伝統が根をお
ろしている我が母校」とい
う形のものであった。これ
は、戦後に各高校が誕生
したときの経緯を示してい
ると私は解釈したのであ
った。

本校の校歌の作詞者も、第
一期生としてほしい言、
制定委員の生徒代表が提言
したと聞いて、私は君たち
のフレッシュな発想と、学
校づくりに燃えるフアイト
に頭の下がる思いがした。
そしてひそかに、その歌詞
の「一筋、永遠の伝統築きゆ
く」に注目したのである。
ある高校の歌に、「伝統と
は受け継ぐものでなく開い
取るものである」と書かれ
た石碑がある。長い校史を

もつこの学校が、更に文武
両道の教育を伸張させよう
とする願いをこの言葉に託
したものと考える。
今、スクーターラインに
つづいたのは、「伝統を築き
ゆくのだ」と表現したので
ある。自らの手足を使い、
汗を流して、ひたすら自己
の目標に向かって日々努力
を続ける。「築く」のは自
分たち、私はそこに、主体
的に、自律的に学習しよう
とする若人の意志の表れを

見た。これは「開いて取る」と同じ考え方であり、校歌の中のこの新しい「伝統」の用法は、松山地域の期待を担う伊予高生の決意の表
現として、まことにふさわ
しいものであると思つた。
二期生が入学して一層学
校らしくなり、全校に活気
がみなぎっている。一期生
はあの歌のとおり、「お兄ち
やんになつた」。たし、二期生
もまた、入学以来祝日時の
うたにすつきり高校生らし
くなった。そして私は、六
月五日の朝礼で、予告して
いたとおり、「両輪の時代」
の開幕を宣言した。

校章の由来
全体の形態として、前
進・向上を象徴化したデ
ザインで、伊予高専学校
が「高(おとり)」のこころを
羽ばたく姿を表している。

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



白樺湖畔にてサイクリングを楽しむ。

.....

実施期間

S 59年 7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S 59年 7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

- 1日目 松山-----松山港~~~~~
- 2日目 ~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル-----東京都内(班別自主研修)-----ホテル
- 3日目 東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖
- 4日目 白樺湖——車山高原 mmmmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)
- 5日目 白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~~
- 6日目 ~~~~松山港

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



白樺湖畔の風景。ボートに興じる。



実施期間

S 59年 7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S 59年 7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

1日目 松山-----松山港~~~~~

2日目 ~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル-----東京都内(班別自主研修)-----ホテル

3日目 東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖

4日目 白樺湖——車山高原 mmmmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)

5日目 白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~~

6日目 ~~~~松山港

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



散策中に水分を・・・

.....

実施期間

S 59年 7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S 59年 7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

1日目 松山-----松山港~~~~~

2日目 ~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル-----東京都内(班別自主研修)-----ホテル

3日目 東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖

4日目 白樺湖——車山高原 mmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)

5日目 白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~

6日目 ~~~~松山港

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



松明に火をつける。今ではもう出来ない。

.....

実施期間

S 59年 7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S 59年 7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

1日目	松山-----松山港~~~~
2日目	~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル----- <small>東京都内(班別自主研修)</small> -----ホテル
3日目	東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖
4日目	白樺湖——車山高原 mmmmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)
5日目	白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~
6日目	~~~~松山港

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



これは何だろう？

.....

実施期間

S59年7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S59年7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

1日目 松山-----松山港~~~~~
2日目 ~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル-----東京都内(班別自主研修)-----ホテル
3日目 東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖
4日目 白樺湖——車山高原 mmmmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)
5日目 白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~~
6日目 ~~~~松山港

団編成

(第1団)

201、203、

205、207、

209

(第2団)

202、204、

206、208

210

・セクション5・

第1回 修学旅行 1984.7.24~7.30

伊予高初の修学旅行は、東京・信州方面でした。



休憩中。さあ、次の場所へ！

.....

実施期間

S 59年 7月24日(火)~
7月29日(日) 第1団
S 59年 7月25日(水)~
7月30日(月) 第2団

1日目 松山-----松山港~~~~~

2日目 ~~~~神戸港——新神戸——東京——ホテル-----東京都内(班別自主研修)-----ホテル

3日目 東京——談合坂——河口湖——富士山五合目——河口湖——双葉——諏訪——白樺湖

4日目 白樺湖——車山高原 mmmm 車山山頂-----霧ヶ峰——白樺湖(自由行動)

5日目 白樺湖——諏訪——駒ヶ根——小牧——明治村——小牧——豊中——大阪城——大阪港~~~~~

6日目 ~~~~松山港

グループ名決定！

1984.9.11

青海

一面に広がる青い海のこと。この海の広大さ、そして嵐のような激しさを持ったグループ。

101, 104, 205, 209

白嶺

白い山々の嶺のこと。どっしりとしていて相手を威圧し、荘厳さを備えたグループ。

102, 103, 203, 210

紅陽

真っ赤に燃える太陽のこと。一丸となって炎のようにメラメラと燃えているグループ。

108, 109, 202, 206

この時から、5グループになりました。

緑雲

青々と生い茂った樹木のこと。樹木が伸び育つように、飛躍していくグループ。

105, 107, 201, 207

煌星

きらりと輝く星のこと。まさに、優美でかつ華麗に、一番輝いているグループ。

106, 110, 204, 208

・セクション7・

第2回運動会

1984.9.22



すべてにおいてグレ[⚡]ドアップ!





再録！グループ長の言葉〔おおとり第2号より〕

白嶺とは、雪をかぶり、雄大かつ鋭くそびえる山々のことである。
力強く、ねばり強いことが、我がグループの特徴である。

運動会、グループマッチでは、今ひとつ力が出しきれなかったが、
来年度は、全員が一致団結して、優勝をねらいたい。

我が白嶺、優勝あるのみ。



再録！グループ長の言葉〔おおとり第2号より〕

我が青海グループは、総合優勝1回の実績を持つ、すごいグループだ。なんといっても、全員の団結力が強く、それが「青海」を支えている。活動は地味であるが、他のグループにとっては手ごわい存在であると言えるだろう。

とにかく青海は、燃えるグループである。



再録！グループ長の言葉〔おおとり第2号より〕

緑雲といえば、なんといっても運動会。本当に全員が燃え、またそれが総合優勝という最高の結果として表れた。あの運動会の応援練習の時、緑雲の団結力のすばらしさをグループの一人一人が実感し、さらに緑雲は

いっそう強く結ばれたのである。



再録！グループ長の言葉〔おおとり第2号より〕

私たち煌星グループは、グループマッチのたびに、みんなが一丸と
なって頑張っている、運動会の競技では、あまり思わしくなかったが
仮装・装飾ではよく健闘し、特に装飾では有効に時間を使って頑張り
優勝することができた。今後も、全員で協力し、

グループを盛り上げていきたいと思う。



再録！グループ長の言葉〔おおとり第2号より〕

“燃え上がれ炎の兵士たち”のことばで一致団結し、運動会に臨んだ私たち紅陽グループはグループ長を中心に結束し、グループマッチ等も素晴らしい成績を取めた。まさに灼熱の太陽のごとく熱い心で、目標目指して突進し、

ますます団結の力を強め頑張るつもりだ。

〈 結果発表 〉

競技の部	緑雲グループ
装飾の部	煌星グループ
仮装の部	紅陽グループ
応援の部	緑雲グループ
総合優勝	緑雲グループ



運動会時、おおとり会より校旗の贈呈がありました。

ちなみに、この年の総合結果は. . .

優勝	緑雲グループ	1942点
第2位	紅陽グループ	1932点
第3位	白嶺グループ	1891点
第4位	青海グループ	1865点
第5位	煌星グループ	1731点

PTA会報「いよ高」第1号発刊

1984.10.19

伊予高PTA会報

1) 第1号

輝く将来

—伊予高PTA 1歳6ヵ月—



伊予高等学校



中村

PTA 伊予高
会報 いよ高

昭和五十九年十月十九日

迎えて

同輪の轍に刻むものはなに



伊予高新聞

昭和五十九年度PTA役員

会長	佐藤 隆
副会長	佐藤 隆
幹事	佐藤 隆
庶務	佐藤 隆
会計	佐藤 隆
文書	佐藤 隆
広報	佐藤 隆
総務	佐藤 隆
庶務	佐藤 隆
会計	佐藤 隆
文書	佐藤 隆
広報	佐藤 隆
総務	佐藤 隆

入学者選抜学力検査

1985.3.12～3.13



伊予高を受験する中学生たちのために生徒たちが作成した看板。前年度に引き続き作成することになりました。

そして新入生を迎え、伊予高校は3学年が揃った「トロイカ」の時代へ・・・

